

記号・アイコンの説明 (昆虫類)

大 大きさ 色 体色 食 食べ物 声 鳴き声 成虫が見られる時期 春 夏 秋 冬

外来種区分 特 特定外来生物 外 生態系被害防止外来種 般 外来種 (一般)

生息環境区分



貴重種区分

CR	絶滅危惧 IA類	A	最重要保護生物
EN	絶滅危惧 IB類	B	重要保護生物
VU	絶滅危惧 II類	C	要保護生物
NT	準絶滅危惧	D	一般保護生物
DD	情報不足		

オニヤンマ (オニヤンマ科)



林がそばにある小さな流れや丘陵地の間の湿地に多く見られる、日本で最も大きなトンボです。黒に黄色のしま模様とエメラルドグリーンのおおきな目が特徴です。

大 10cm 色 黒色と黄色
食 昆虫 声 —
夏



クマゼミ (ゼミ科)



黒く角張った体と透明なはねを持つ大きなゼミです。朝と夕方に鳴きます。もともとは、西日本の暖かい地域に分布していましたが、最近、成田市でも見つかりました。

大 6cm 色 黒色と黄色
食 樹液 声 シャンシャンシャン
夏



ヘイケボタル (ホタル科)

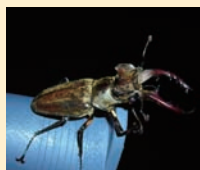


周辺に樹木がある水路や水田などで見られます。ヘイケボタルは体が小さく胸に黒色の縦の紋があり、体が大きく胸に黒色の十字の紋があるゲンジボタルと区別できます。幼虫は水の中にすんでいます。

大 8mm 色 黒色と黄色
食 幼虫は小型の巻貝 声 —
夏 C



ミヤマクワガタ (クワガタムシ科)



おもに雑木林で、クヌギなどの木の蜜に集まっています。成虫は“ひと夏の命”で冬は越せません。角張った頭部と大きなあごが特徴です。

大 2.5~8cm 色 黒褐色
食 樹液 声 —
夏 D



コクワガタ (クワガタムシ科)



雑木林のほか、樹木のある公園でも見ることができます。成虫で越冬し、寿命は2~3年とやや長生きです。

大 2~5cm 色 黒褐色
食 樹液 声 —
夏



ノコギリクワガタ (クワガタムシ科)



おもに雑木林で、クヌギなどの木の蜜に集まっています。成虫は“ひと夏の命”で冬は越せません。大きく曲がったあごに特徴があり、子どもたちにも人気のあるクワガタムシです。

大 2.5~7.5cm 色 黒褐色
食 樹液 声 —
夏



ギンイチモンジセセリ (セセリチョウ科)



樹木がまばらに生えた林や草地、河川敷、休耕田などで見られます。幼虫はススキなどを食べます。「銀一文字」の由来になった、はねにある銀白色の一本のすじが特徴です。

大 17~18mm 色 薄茶色と白色
食 花の蜜 声 —
春 夏 NT D



ミヤマセセリ (セセリチョウ科)



褐色地に黄色紋を散らしたはねを持つきれいなセセリチョウです。成虫は春にしか出現しないため、見られる期間は限られています。雑木林の林縁などで地面によく止まっています。

大 17~18mm 色 こげ茶色と黄色
食 花の蜜 声 —
春 B



ショウリョウバッタ
(バッタ科)



背の低いイネ科の植物が生えた、明るい草地に生息する細長いバッタです。都市部の公園や芝生、河川敷などでも見られます。個体によって、体色が緑色と茶色のものがあります。

大 40～80mm **色** 緑色と茶色

食 草の葉 **声** —

夏 **秋**



ショウリョウバッタモドキ
(バッタ科)



おもに背の低いイネ科の植物が生えた、明るい草地に生息しています。ショウリョウバッタに似ていますが、本種は首と胴体の間が曲がらず、まっすぐなことで区別できます。

大 25～50mm **色** 黄緑色

食 草の葉 **声** —

夏 **秋** **D**



コガムシ
(ガムシ科)



水生植物が生育する池沼に生息しています。幼虫は、水生で肉食、成虫は草食です。

大 17～18mm **色** 黒色と白色

食 幼虫は肉食、成虫は草食 **声** —

春 **夏** **DD** **D**



ノシメトンボ
(トンボ科)



赤トンボの一種で、はねの先が黒いのが特徴です。周辺に樹林地がある比較的開けた池沼や水田で多く見られます。

大 40～50mm **色** 赤色と赤茶色

食 昆虫など **声** —

夏 **秋**



ナガメ
(カメムシ科)



アブラナなどでよく見られるカメムシであることから「菜亀」と名付けられた、黒地に赤い縁取りと模様が目立つ小さなカメムシです。成虫で越冬します。

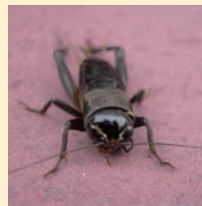
大 6.5～9.5mm **色** 黒色と赤色

食 植物の汁 **声** —

夏



エンマコオロギ
(コオロギ科)



雄は夜に“ヒヒヒヒヨヒヨヒヨ…”というもの悲しい声で鳴きます。顔にある白い眉毛模様が閻魔様の顔のように見えるためこの名前がつけました。本州で最も大きなコオロギです。

大 26～32mm **色** 濃茶色

食 植物や昆虫の死骸 **声** ヒヒヒヒヨヒヨ

夏 **秋**



アブラゼミ
(セミ科)



雄は“ジー…ジジジジ…”と鳴きます。成虫は茶色の体とはねを持つのが特徴で、ほかの種と見分けやすいです。夜から明け方にかけて、幼虫が地面から出て羽化します。

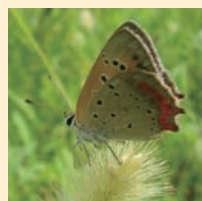
大 56～60mm **色** 茶色

食 樹液 **声** ジー…ジジジ

夏



ベニシジミ
(シジミチョウ科)



30円切手のデザインにも使われていた、きれいなシジミチョウです。春に日当たりの良い草地で、タンポポやヒメジョオンから蜜を吸う姿がよく見られます。

大 8～10mm **色** 赤色と黒色

食 花の蜜 **声** —

春 **夏** **秋**



ヤマトシジミ
(シジミチョウ科)



シジミチョウの中でもっともよく見られる種で、おもに道端や畑地周辺に生息します。市街地に多いカタバミを幼虫が食べるため、人家周辺でもよく見られます。

大 8～10mm **色** 薄青色と黒色

食 花の蜜 **声** —

春 **夏** **秋**



ココマキリ
(カマキリ科)



よく見られる小型のカマキリで、カマの内側に白と黒のはっきりとした模様があるのが特徴です。

大 45～60mm **色** 肌色とこげ茶色

食 昆虫など **声** —

夏 **秋**

